

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日: 令和6年3月 22日

事業所名: すこやかキッズスタジオ須磨

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	十分なスペースを確保するために、活動に不要な物は置かず、整理整頓を心掛けている。	はいの評価が多数、どちらともいえないやわからないが少数あり。 意見: 確保されています。	一人に使えるスペースを確保する為にも、これまで通り活動スペースを確保できるよう整理整頓を徹底する。また、見学時等に保護者への説明を行っていく。
	2 職員の適切な配置	子ども10名の定員に対して、1/2以上の人数の職員を配置している。	はいの評価が多数、わからないが少数あり。 意見: 適切です。	現在の配置数を維持していくと共に、子どもや家族が安心して利用できるようスタッフのスキルアップを図っていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	室内はワンフロアで段差を無くし、視覚支援を用いて目的別に区切ることで理解しやすい環境を整備している。ただ、トイレが少し狭い。	はいの評価が多数、わからないが少数あり。 意見: 配慮されています。	出来る限り個々の特性に合わせ、安全で安心できる環境作りを進めていくと共に、引き続き見学のアプローチも行っていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	随時アルコール消毒や換気を行うと共に、日々の清掃により清潔を保持している。また、クッションマット等により安全な空間作りに取り組んでいる。	はいとの評価。 意見: 清潔感のある環境になっています。	引き続き各職員に対して清掃、消毒を徹底しておこなうよう周知をおこない、清潔で安心して過ごせる環境作りをおこなっていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	朝礼時、送迎終わり等に時間を作り、問題点や解決策を話し合い、職員間の連絡ノート等で全職員への周知を図る。		各職員に周知をおこない、取り組んでいく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現時点では第三者による評価は実施していない。		第三者による外部評価の実施はないが、子どもやその保護者の方に信頼してご利用いただけるよう業務の質の向上に努める。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	毎月の虐待防止、安全運転チェックリストでの自己確認、研修会議などを定期的に実施している。		十分な時間を取り定期的な会議、研修をおこなっていく。
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者へのモニタリングでの聞き取りをおこない、それを基に職員間での話し合い、ニーズや課題を分析、計画書の作成をおこなっている。		保護者へのモニタリングや送迎時、面談での聞き取りをおこない、ニーズに沿った計画を心掛けて作成をおこなっていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個々の発達段階や心身の状態や発達の段階に合わせて、個別・集団活動を組み合わせ作成している。	はいの評価が多数、どちらともいえない、わからないが少数あり。 意見: ・計画されています。・製作活動をよくしているので学校の図工の成績が伸びている。	個々の状況に応じた個別、集団活動を組み込んだ計画を作成していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
提供	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	計画書の項目に、それぞれの目標や職員からの情報、保護者からのニーズを取入れ、それらに沿った支援内容を記載している。		子どもの特性や現状、課題を客観的に捉え、それぞれの段階に見合った支援内容を記載していく。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	全職員が計画書の内容を周知し、計画書に沿って個々に必要な支援を実施している。	はいの評価が多数、どちらともいえないやわからないが1名ずつあり。 意見:実施されています。	定期的に計画書を見直し、目標や課題に対して現状の把握と支援方法を職員全体で周知していく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	現場の職員の考案したプログラムを反映しながら、安全面を最優先に配慮した活動プログラムを実施している。		安全・安心を第一に考えた上で、目的や意図を明確にしたプログラム作成に全職員で取り組んでいく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	職員の配置を考慮しながら、利用日や時間帯の希望を聞き取り、できる限り意向に沿った対応を図っている。	はいの評価が多数、どちらともいえないやわからないが少数あり。 意見:週1回の利用ですが楽しんで利用しているので色々プログラムを考えてくれていると思います。	安全面を十分に配慮した上で、ニーズに沿った支援を心がける。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	個別、全体でのプログラムをおこない、流動的なプログラムの実施をおこなっている。		プログラムが固定化しないよう、日々の利用者の状況や環境を把握して個々、全体の活動を実施していく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝礼や昼礼での口頭での伝達、また出勤時に職員に目を通してもらう利用者への連絡事項や変更事項などの確認を徹底しておこなっている。		朝礼や昼礼時に職員への伝達をおこない、支援内容や役割分担の確認をおこなっていく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	些細な事柄でも報告をおこなうよう各職員に伝えている。また、気が付いた点などを記録する書類など、職員間で情報を共有している。		気づいた事の記録や、些細な事柄でも報告をおこなうよう連携を取り、職員間での情報の共有化を引き続きおこなっていく。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の子どもの健康状態の把握や、食事や活動状況などの記録をおこなうと共に、職員間の話し合いの時間を設け、検証して改善策を考え継続して実施をおこなっている。		利用者の日々の健康状態や活動に対して職員全員が気を配り、支援についての記録をおこない、検、改善できるよう努めていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	最長で6ヵ月に1回(子どもや環境が変わればその都度)の頻度でモニタリングを実施し、それに沿って支援計画書を見直し、作成している。		今後も半年に1回以上モニタリングを実施し、計画書を見直す。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	経験豊富な職員が、要望に応じた形で担当者会議に参加している。	担当者会議が開催された場合には施設の児童発達管理責任者が積極的に会議に参加する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当なし	該当なし
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当なし	該当なし
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	該当なし	該当なし
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	保護者、移行後の施設からの依頼があれば、その都度情報を提供している。	個人情報の取り扱いには十分に注意を払いながら、今後も必要に応じて情報提供の協力を行っていく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要に応じて実施している。	今後多くのスタッフが研修に参加出来る様に調整していきたい。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在は実施していない。	いいえやわからないの評価が多数、どちらともいえないが少数あり。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域の方々を招待する行事は実施していない。	保護者用の評価表に該当する項目無し	機会があれば検討していく。	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用前の見学時や契約時に、担当職員が口頭と書面にて説明を実施している。	はいの評価が多数、どちらともいえないやいいの評価が少数あり。 意見:説明して頂きました。	伝え漏れが無いように丁寧に説明し、不明点があれば随時説明していく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	支援計画書を提示しながらの説明、支援内容を伝えている。	はいの評価が多数、いいの評価が少数あり。 意見:して頂いています。	引き続きポイントをおさえたより丁寧な説明を行っていく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者からの依頼があればその都度、電話や面談での相談を実施している。	わからないやどちらともいえないの評価が多数、はいの意見が少数あり。 意見:行われていると思います。	保護者が相談しやすい環境や時間を作っていけるよう、検討、改善をおこなっていく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎時に、保護者と情報のやりとりをしており、必要に応じて電話等で共通理解を深めている。	はいとの評価が多数、どちらともいえないが少数あり。 意見:送迎時にその日の様子を教えてもらっています。	今後も保護者との情報交換・共有が適切に行えるように努めていく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時や電話にてその都度対応しており、保護者からの依頼があれば時間を設定して、来所していただいて相談ができる体制を整えている。	はいの意見が多数、わからない、どちらともいえないが少数あり。 意見:相談への対応・対処してもらっている。	保護者が相談しやすい環境を作っていけるように、引き続き検討、改善をおこなっていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施していない。	いいの評価が多数、わからないの評価が少数あり。 意見:保護者同士で会う事が無いのでわかりません。	現段階では、父母会等の実施予定はありません。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情に対応する体制は契約時の重要事項説明書に記載及び説明しており、万が一苦情があった際には担当職員が対応する体制を整えている。	はいの評価が多数、わからないの評価が少数あり。 意見:苦情が無いのでわかりません。	迅速に明確な対応が出来る様、引き続き体制を整えていく。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	連絡帳の活用と日々の送迎時にその日の様子を伝えている。また、必要に応じて電話にて情報の共有を図ることがある。	はいの評価が多数、わからないほ評価が少数あり。 意見:されています。	日頃からの児童のようすを把握し変化に気づき保護者に伝えられる様に努めていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	定期的な会報等の発行は出来ていないが、活動概要や行事の予定等は連絡帳、送迎時に口頭で伝えている。	いいえ、わからないの評価が多数、はいが少数あり。 意見:わからないです。	連絡帳や直接親への伝達をしておりますが引き続き分かりやすい情報伝達に努めていく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の取り扱いには契約時に説明を行っており、使用の際は保護者に同意の上行っている。個人情報を記載した書類は鍵付き倉庫で保管している。	はいとの評価が多数、わからないの評価が少数あり。	今後も契約時の丁寧な説明と、個人情報の取り扱いについては、その都度保護者の方へ確認する等細心の注意を払う。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルは策定しているものの、保護者への周知は徹底できていない。	はいの評価が多数、わからない、いいえが少数あり。	マニュアルの定期的な更新を行い、保護者への周知を進めていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	1年に数回災害発生を想定した訓練を実施している。	はいとわからないの評価あり。 意見:していると思うが週1の利用なのでわからない。	計画に沿った訓練の実施を行い、当日参加していない児童の保護者へも訓練実施の報告を行っていく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	入社時に虐待防止をはじめとする研修をおこない一か月に一度、定期的な研修もおこない調査、課題の提示、改善、職員への周知をおこなっている。		各職員が常に高い意識で虐待の防止について考えるよう、定期的な研修と毎月のセルフチェックを実施していく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	子ども自身に危険がある事例については、その事業所だけでなく会社全体での会議で決定しており、全職員に周知している。また、保護者にも十分に説明し、理解していただいた上で、支援計画書へ記載している。		引き続き全体での会議で慎重に決定していき、全職員が周知できる体制を継続していく。計画書の記載、保護者への説明も徹底していく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	保護者からの聞き取りを行い医者からの資料や意見書を基に注意事項や環境の徹底をおこなっている。		食物アレルギーに対して十分に留意し、保護者からの聞き取りをおこない、間違いが起こらないよう確実にアセスメント反映し、全職員で周知徹底をおこなっていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	自事業所内だけでなく、別の事業所で発生した事例についても事例集に記載し、事例の周知および再発防止の徹底を図っている。		引き続き朝礼や昼礼などで支援内容の役割分担を確認をおこない周知徹底をおこなっていく。